

環境先進国

ドイツから学ぶ

吉田 浩巳

22



印象的でしたが、投票が終ると先生が筒をみんなの前に持ってきて、みんなに見えるようにして筒ごとにビー球を一個ずつ声を出して数えます。

自分の投票した場所が選ばれた子どもたちは、飛び上がった喜んでいたので印象的でした。

子どもたちが、大勢の中で違う意見の友達がいっても、みんなで決めたことは、みんなで一緒に遊ぶということや、人という集団社会の中での共生をこいつつ実践を通じて学んでいることを目の当たりにしました。

モニカ・ムンチ園長に特に心がけていることや、今抱えている問題点を聞きま

した。園の方針としては、一つ目は子どもたちが自分の身の回りで起こっていることを気づき発見すること。二

つ目は社会に出てから最も必要な社会性、協調性を身につけてもらうこと。そして三つ目は、地球上には人間だけではなく多くの動物が生存しているため、人間のためだけの地球ではなく、動物のためにも地球があるという意識を持たせること一を挙げました。

こうした点からモニカ園長は「身近に自然を感じ生活することにより、成長して大人になってからも森を理解し、自然は人間だけのものではなく、みんなのものであるという自然保護の心が養われることが期待できます。同時に豊かな心も育まれるでしょう」と話してくれました。

(社団法人まちづくり国際交流センター理事長)

毎月第2、第4、第5水曜日掲載

森の幼稚園では、大自然の中で子どもたちが泥まみれになって遊んでいます。私が注目した遊びを一つ紹介したいと思います。少し体もほぐれてきたところで、先生の一人が遊ぶ場所を書いた紙が張ってある3本の筒を持ってきまし

た。

で決めるということですが、それぞれの紙には①園内でみんなで歌ったりゲームをする②園の周辺の広場で遊ぶ③少し遠いところにある広場まで行って遊ぶという三つの内容を、先生は子どもたちに説明しました。

一人ずつ名前を呼んで、みんなに見えない場所での筒にビー玉を入れさせます。まさに、子どもたち自身に自分たちがする遊びを投票で選ばせていました。

ここでは、遊びを決める上での年の上下の関係はありません。それぞれの思いを込めたビー玉がこれからの自分たちの遊びを決めるシステムです。

なぜ、投票で遊びを決めるのですかと園長に聞く

森の幼稚園・下

投票で遊び場所を決定

と、「子どもたちに何をしたいか一斉に聞くと、年上の子どもの意見がいつも通る結果になりました。年齢に関係なく、自分たちが選ぶことができるという実感を持たせるため」と答えが返ってきました。

「ビー玉が同数だったらどうするのですか」と再び先生に聞くと、ビー玉投票を再度行い、あくまでも子どもたちに自分たちがしたいことを選べるのだということでした。

これを聞いて、自分たちの意志の重みや、民主主義についての感性をいやがおうにもドイツの子どもたちは学んでいることを実感しました。

投票する筒の前では、ほとんどの子どもが迷いながら投票している姿が



森の幼稚園で遊ぶ子どもたちドイツ・ラインラントファルツ州のマインツ・ビンゲン郡にある森の幼稚園「ポイムリンゲン」